

1. 科目名 (単位数)	幼児教育学特論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP5312
2. 授業担当教員	関口 はつ江		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	教育という営みは何かの原点に戻りながら授業を進める。幼児教育の理念・歴史を基本に幼児教育の構造理解を深める。現代社会における幼児教育の特質を捉え、今後の幼児教育のあり方を検討する。近代幼児教育思想の流れを概括し、わが国の幼児教育の今日的課題を生涯発達における幼児期の意義、教育方法における保育・教育の関係形成の重要性を中心に講義する。わが国の幼児教育に強い影響力を持つと見られる倉橋惣三、津守真の考え方を詳術し、現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている基本理念、実践方法との関連の理解を図る。		
8. 学習目標	①子どもの在り様を社会の変化との関連で捉える。 ②幼児教育を学ぶものの基礎知識としての西欧及び我が国の幼児教育思想の流れを理解する。 ③保育者の立場から、関わりの中での幼児理解と客観的幼児理解の違いを理解し、保育的関係形成を可能にする幼児観の形成を図る。 ④最近求められている、義務教育の基礎としての幼児教育のあり方について考察する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題1 近代幼児教育思想家の幼児教育の基本理念と現代の幼児教育実践への影響 課題2 「遊び」を通しての保育における保育者の役割を述べる 課題3 幼児教育と小学校教育との関連、及び幼児期の保育の基本		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 津守真『保育者の地平』ミネルヴァ書房 倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館 資料はその都度配布する。 【参考文献】 西平直『教育人間学のために』東京大学出版会 (2005) ボルノウ、O.F.『人間学的に見た教育学』玉川大学出版部 秋田喜代美監修『あらゆる学問は保育につながる』東京大学出版会 民秋言監修『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林 『子ども学』vol.1 特集保育の質を問う 萌文書林		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1 幼児教育を歴史的社会的背景との関連でとらえているか 2 幼児の発達の特質と生活の在り方について理解しているか 3 レポート作成において、文献の引用、用語の使用、論旨の展開が適切か ○評定の方法 レポート内容 (理解度、思考力) 3回の課題レポート 各 20% 最終レポート (独自の問題選択にみられる事実の認識の明確さと見解の表現の的確さ) 40%		
12. 受講生へのメッセージ	日頃から子どもの問題に関心を持ち、幼児の特性を理解し、幼児の立場から状況を捉える姿勢をもつこと、また、自分なりの見解を持つと共に、他者の意見や立場から学ぶ柔軟な態度を期待したい。		
13. オフィスアワー	後日通知		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1～2. テーマ	社会と子ども		
【学習の目標】	社会における子どもの位置づけ、及び子ども観の歴史的変容、近代幼児教育思想の成立の背景を理解する。		
【学習の内容】	(1) 中世から近代への生活形態の推移と子どもとおとなの関係の変化、及びその現代の状況との対比 (2) 社会の一員としての子ども、学習者としての子ども、消費者としての子ども、と言う変化が子どもの生活に与える影響 (3) 子どもの経験が生活から分断され、学習内容が総合性を失ったことの問題		
【キーワード】	小さなおとな 子どもとおとなの生活の距離 学校への抱え込み 子どもの経験世界の分裂		
【学習の課題】	(1) 生産活動、地域社会、家族形態等が子どもの在り方を決めていたことを現代の子どもの状況で確認する。 (2) 子どもの問題を社会の長期的な変化との関連で認識する。 (3) 個人的に生起している問題を直接要因と間接要因で解釈する。		
【参考文献】	高橋勝『文化変容の中の子ども』東信堂 本田和子『子ども 100年のエポック』フレーベル館		
【学習する上での留意点】	身近な子どもの問題をグローバルな視点で捉えようとする態度をもつ。		
3. テーマ	西欧の幼児教育思想 1 (19世紀までの主な思想)		
【学習の目標】	現代の幼児教育観の基礎となっている古典的思想を理解する。		
【学習の内容】	(1) 「人間の教育」の一部からフレーベルの思想の特質と幼稚園設立への繋がり、恩物の意義を理解する。 (2) 今日われわれがもっている保育への一般的な態度との関連を考察する。		
【キーワード】	フレーベル、幼稚園の成立、恩物の意味、遊びの考え方		
【学習の課題】	(1) なぜフレーベルは幼稚園を設立したのか。それは今日の幼稚園と同じ役割であったのか。 (2) 教育において恩物を考案する必要性、及び恩物のその後の幼児教育に果たした役割		
【参考文献】	1) フレーベル「人間の教育」岩波文庫 2) 矢野智司著『子どもという思想』多摩川大学出版部		
【学習する上での留意点】	古典と言われる書物に馴染む。		
4～6 テーマ	西欧の幼児教育思想 2 (19世紀以降の主な思想と現在の幼児教育)		
【学習の目標】	現代に強い影響を及ぼしている主な幼児教育思想を理解する。		
【学習の内容】	(1) モンテッソーリの思想と教育方法 (教具、教師の役割) (2) 新教育運動の流れ及びデュエイの思想と実践 (3) レジジョ江ミリヤの保育実践		
【キーワード】	子どもの家、敏感期 モンテッソーリ教具 新教育運動、為すによって学ぶ、子ども達の 100の言葉		

<p>【学習の課題】 (1) モンテッソーリの教育観と手法は今日の社会環境下の子どもにとってどのような長所短所が考えられるか。 (2) デューイの功績のうち現代社会において最も意味のあるものはどのようなことか。</p> <p>【参考文献】 後日指定</p> <p>【学習する上での留意点】 実際にモンテッソーリ教具について調べて具体的に考える。</p>	
<p>7. テーマ</p>	<p>我が国の現代の幼児教育の基礎 1 (保育の黎明期)</p>
<p>【学習の目標】 我が国の幼稚園、保育所の成立過程から、現在の幼稚園、保育所問題のもつ根本的課題を考える。</p> <p>【学習の内容】 (1) 明治初期の教育政策と幼稚園の成立 (2) 幼稚園の保育内容、普及状況 (3) 保育所の成立過程と普及状況</p> <p>【キーワード】 東京女子師範学校附属幼稚園 倉橋惣三 和田実 赤沢鐘美</p> <p>【学習の課題】 (1) 幼稚園と保育所の性格の違いを歴史的に理解する。 (2) 我が国の子育ての伝統と初期の幼稚園、保育所の社会的役割及び保育内容との関連を考察する。</p> <p>【参考文献】 後日指定</p>	
<p>8. テーマ</p>	<p>我が国の現代の幼児教育の基礎 2 (保育法の展開)</p>
<p>【学習の目標】 倉橋惣三の保育論を理解し、現在の保育実践への影響と課題を考察する。</p> <p>【学習の内容】 倉橋惣三の保育論をテキスト「幼稚園真諦」から学ぶ (1) 教育の目的と対象 (2) 生活へ教育を (3) 幼児生活の自己充実 (4) 保育案 (5) 保育過程</p> <p>【キーワード】 児童中心主義 自己充実と充実指導 誘導保育 保育形態</p> <p>【学習の課題】 (1) 子ども中心の保育の意味を考える。 (2) 倉橋論における保育者の役割を理解する。 (3) 現在の保育の実際と倉橋の考えている保育の実際との隔たりについて考察する。</p> <p>【参考文献】 倉橋惣三『育てての心(上)(下)』フレーベル新書</p> <p>【学習する上での留意点】 倉橋の発想理解に際しては昭和時代前半の生活的な背景についても考える。</p>	
<p>9～10. テーマ</p>	<p>我が国の現代の幼児教育の思想 1 (子ども中心の保育)</p>
<p>【学習の目標】 倉橋の保育論から現代の保育論、特に津守真の保育論への繋がりを学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 テキスト「保育者の地平」1章から3章までを通して次の理解を深める。 (1) 子どもの諸能力の基礎とされている「存在感」「能動性」「相互性」「自我」が生れる過程を理解する。 (2) 保育の展開を支える子どもと保育者のつながり方</p> <p>【キーワード】 存在感 能動性 相互性 自我 子どもの世界 保育者の自己実現と子どもの自己実現</p> <p>【学習の課題】 (1) 「子どもの世界を生きる」ことが保育者の要件であるわけを理解する。 (2) 「今を充実させる」ことと「発達を促す」との間をどう考えるか。 (3) 子ども個々の活動テーマを理解することの重要性を考察する</p> <p>【参考文献】 津守真『子どもの世界をどうみるか』NHKブックス</p> <p>【学習する上での留意点】 具体的な事例を生き生きと感じると共に行為の意味を汲み取るようにする。</p>	
<p>11～12. テーマ</p>	<p>我が国の現代の幼児教育の思想 2 (子どもの内面理解と関係性)</p>
<p>【学習の目標】 津守の保育論における保育の基本理念を理解し、現代の一般的教育観と比較する。</p> <p>【学習の内容】 (1) 保育の中の「発達」の考え方 (2) 保育の状況性 (3) 表現としての理解 (4) 遊びの重要性 (5) 保育者の成長</p> <p>【キーワード】 保育の知 表現としての理解 身体的行為・知的行為としての保育</p> <p>【学習の課題】 (1) 「発達」を異なる視点(外的、内的、保育的關係で)考える。 (2) 遊びの内側にあるもの、行為の意味を例をあげて解釈する。 (3) 真の關係(「なる」關係)の真意を理解する。 (4) 津守の保育実践を能力開發的立場からはどうみるか考察する。</p> <p>【参考文献】 鯨岡俊「子どもは育てられて育つ」慶應義塾大学出版会</p> <p>【学習する上での留意点】 早期幼児教育論の発想との違いを十分考える。</p>	
<p>13～14. テーマ</p>	<p>現在の幼児教育の当面する課題 (子どもの生活経験、発達状況への対応)</p>
<p>【学習の目標】 現代の子どもの発達の課題に対する集団保育の役割を考察する。</p> <p>【学習の内容】 (1) 集団保育における保育者と子どもの關係(特に、今の子どもの育ちを踏まえて保育的關係体験の重要性) (2) 仲間關係との関わりの体験の重要性 (3) 生活経験、生活習慣形成の場としての幼稚園、保育所</p> <p>【キーワード】 集団生活への適応 生活習慣の自立 遊びにおける自己表現 保育者との信頼關係</p> <p>【学習の課題】 (1) 集団に入りにくい子どもに対する保育者の役割や子ども同士の關係を深めるための配慮を考える (2) 発達や生活経験に偏りのある子どもの集団への適応の過程、援助のしかたを考える</p> <p>【参考文献】 1) 大宮勇雄『保育の質を高める』ひとなる書房 2) バーバラ・ロゴフ『文化的営みとしての発達』新曜社</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもの育ちを個人と社会、集団との両面から捉え、その相互影響を考える</p>	
<p>15. テーマ</p>	<p>義務教育の基礎としての幼児教育</p>
<p>【学習の目標】 これまでの授業内容を基礎として、生活の中で積み上げる保育、系統的な教育課程による学習を行う小学校以上の教育との目的及び方法上の違いを踏まえ、幼児期に育てておくべきこととその後の教育との接続のあり方を考察する。</p> <p>【学習の内容】 (1) 現在幼小の連携問題の所在 (2) 子どもの育ち、環境、経験からの課題 (3) 教育目的内容方法上からの課題 (4) 課題解決のための保育実践上の専門的方策</p> <p>【キーワード】 義務教育の基礎としての児期の発達 幼小連携・接続 専門機關の連携 保育の専門性</p> <p>【学習の課題】 (1) 幼児の教育と小学校教育の目的の違いと教育法との関連を理解する。 (2) 現在行われている幼小連携の実践法とその理念、効果を考える。 (3) 真に義務教育の基礎となっているものは何かを考える。 (4) 幼児期の専門的な教育者の力量の育成を考える</p>	

【参考文献】 1) ドナルド・ショーン『専門家の知恵』ゆりみ出版

【学習する上での留意点】人間形成や発達的基础、適応や学習効果、それぞれについて深く考え、子どもの立場で幼児教育を考える